

## 宮古島 IN

### 上井幸子という写真家を知ってますか？

しもじけいこ

もろさわようこさんを通して

知った上井幸子さん

初めて上井幸子さんの写真を観たのは今から7年ほど前。「うないフェスティバル」を生んだラジオ沖縄の元ディレクター、源ひろみさんと同行した玉城にある「歴史を拓くはじめの家うちなあ」でした。

この「家」は、もろさわさんが私財と全国の支援者からの浄財で建てた、いわば「女性たちの平和学習と交流の場」です。その建物は、趣旨に賛同した建築家の真喜志好

一さん設計の、吹き抜けの木造2階建ての家です。

その壁に、「ウヤガン」のおばあさんの写真があったので、「比嘉康雄もろさわさんは「上井幸子さんという写真家のもですよ」と答えてくれました。それが、私と、上井さんの写真との関りの始まりでした。

私にとっては、うないフェスティバルの第1回の基調講演で、もろさわさんが宮古島の「ウヤガン祭り」という秘祭について話されたことがとても衝撃的でした。私に

大きな勇気を与えてくれたことを、今でもはつきり思い出します。

宮古島での、

上井さんの写真展開催まで

もろさわさんから、上井さんとの出会いや諸々の事を聞く機会がありました。

上井さんは、当時「闘病中」であつたこと。宮古島での写真展をやりたいかつたこと。以前、写真集を出版する予定もあつたことなどを、もろさわさんは話してくれました。

1971年から72年にかけて宮古島を放浪していたもろさわさんは、ウヤガンの現場や佐良浜の祭祀の現場で上井さんと出会い、それからずっと何十年も交流を続けていたそうです。

実は、もろさわさんは沖縄の前に、長野で「歴史を拓くはじめの家」を開設していました。上井さんの初めての写真展は長野のその家で開催され、その写真すべてがもろさわさんに託されたそうです。それが沖縄の家に展示されていたのです。

私が、「比嘉康雄さんの写真ですか」と聞いたのは、全く同じおぼあの写真が比嘉さんの写真にもあるからです。同時期に同じ場所にいたようですが、親しく交流していたわけではなかったようです。家に展示されていたのは数点で、「まだあるんですよ」と言って、他

の写真も見せてくれました。

その時、源さんが「宮古で写真展やったら？」と言ったことがきっかけで、宮古島の仲間と実行委員会をつくり、2010年11月24日から26日まで、島尻にある「パーストウの里」で開催しました。上井さんの写真が初めて「現場」に帰ってきたのです。

市内の大きな施設での開催にできなかったのは、島尻・狩俣・大神がウヤガンの現場だったからです。開催するにあたり、島尻や狩俣の自治会の役員の方々にサンプルで作った写真を見てもらい、「展示してほしくないものは指定してください」などのやり取りを行いました。ウヤガンは秘祭で、全容は公表された事がなくベールに包まれていましたので、上井さんの写真の中に「これって展示して大丈夫？」という不安を感じたからで

した。

すでに島尻と狩俣でウヤガンは途絶えていましたが、それでも展示には当事者の方たちの了解が必要だと思っただけです。島尻出身の友人に頼み、自治会長さんや関係者を紹介してもらい、地元テレビの記者と一緒に話し合いに何日か通いました。結果、1点も除外することなく35点の写真が展示されました。狩俣、大神島からも多くの人が観にきてくれました。「うちのおばあだよ！」と言って懐かしみ涙ぐむ人や、「お母さんだよ！」と言って写真の前で一緒に写真を撮る人。「これ私だよ！」と言い、驚く人。みんなで「いい写真展ができたねえ」と喜んだことが懐かしく思い出されます。

島尻での写真展を終えたあと、平良でも開催してほしいという要望があり、翌年2011年2月1

日から4日まで市役所のロビーでも開催しました。

### 『太古の系譜 沖縄宮古島の祭祀 上井幸子写真集』の出版

宮古島での写真展の数年後に、もろさわさんに上井さんの訃報が届きました。かねてから上井さんの写真と自身の言葉を綴った本を出版したいと願っていたもろさわさんは、遺族から膨大な写真のネガを貰い受けることになりました。

素人では難しい写真の作業をやってくれる写真家を紹介してほしいという事で、ある年のお正月、もろさわさんの所へ比嘉豊光さんに同行してもらい紹介しました。

比嘉さんは、それまで、もろさわさんと交流はなかったのですが、上井さんのネガを見て感動し、作業を引き受けてくれました。そし

て写真集の発刊に向けた作業が始まりました。島尻や狩俣、佐良浜にも出かけ、関係者の了解を得る作業も行ないました。そういう意味では比嘉さんは労力を惜しまず、ていねいに向き合ったと思います。

去る5月26日、宮古島でその写真集の出版記者会見が行われました。でもなぜか私には全く知らされませんでした。それからしばらくして、地元記者から「これ豊光さんから預かってきました」と写真集が届けられました。中に封書があり、「おかげさまで出版できました」というメモ書きがありました。

写真集はとても美しく感動的で、東松照明や比嘉康雄、比嘉豊光の写真集をはるかに超えるものだ、と私は思いました。ダムに沈む集落の工事現場の写真を撮っていた上井さんが、遙か南の小さなこの島と出会ったことで、この写真集

は生まれました。比嘉さんの編集はとても素晴らしく、さすがです。まったく無名だった上井幸子さんという写真家が撮った宮古島の祭祀の写真が、「元始、女性は太陽であった」と古来からの女性史を研究してきたもろさわさんの想いと出会い、素晴らしい写真集が生まれました。

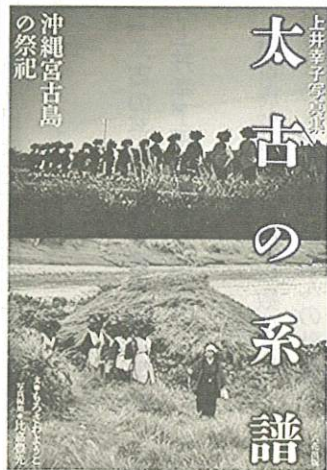
6年前、もろさわさんは自分の足で歩けるうちに！と、35年ぶりに源さんを伴って宮古島を訪ねてくださいました。島尻、狩俣、大神島、伊良部島を、女3人でめぐりました。地元テレビ局の記者がずっと同行取材してくれました。

齢重ね90歳になるもろさわさん。深い想いは写真集の中の言葉にいつばい綴られています。この本は単に写真集というものではなく、宮古島の女性史といってもいいでしょう。祭祀を執り行う後継者が



いなくて存続が危ぶまれる時代になりました。大神島ではまだウヤガンが継続されていますが、高齢化や人口減少は現実です。いつまで続けることができるか……。うれしいことに、狩俣では復活の声もあると聞きました。

しかし、この頃、島のいろんなモノやコトが観光化、商品化され、精神の支柱が揺らいできているような気がします。人々の祈りとは何であつたのか……。島に暮らす一人として改めて考えたいと思います。



『太古の系譜 上井幸子写真集  
——沖縄宮古島の祭祀』

文：もろさわようこ  
写真編集：比嘉豊光  
発行所：六花出版  
発行年：2018年  
定価：2500円＋税

\*来年1月に宮古島の中央公民館で、上井幸子と比嘉康雄の2人展を予定されているようですが、私は個人的には2人展には賛同できません！出版記念写真展なら上井幸子さんだけの写真展をするべきではないでしょうか。今や二人とも天上の人となつていきます。親しい交流のなかつた二人の展覧を、生きている者の思いつきでやるべきではないと思うからです。それとも何か他に意図する事でもあるのでしょうか。個人的には県立博物館・美術館でやってほしいものです。



2018年3月号

【琉球人遺骨返還に向けて】

生死を超えた琉球人掙取をどのように乗り越えるか／松島泰勝〈資料〉琉球人遺骨返還に係わる公開質問・要望書

【レポート】

宮古島陸上自衛隊配備計画「ミサイル基地配備予定地に行ってきました！」／しもじけいこ、ちむぐくる、アキシヨントークイベント「沖縄を新しく語る」／宮城真梨乃  
【風刺画からみるアメリカ統治下の琉球の世相】大城亘武、【ヤマトから沖縄を見つめて】大山夏子、【幸せへの黄色いはがきエッセイ】比嘉明子、【嘉数リポート】香深空哉人、【西表IN】すねしまさく菜、【十六日祭を前に】上原成信さんを偲ぶ／本村紀夫、【研究余録】先島（宮古・八重山）から見た近世奄美社会／平良勝保、【名護市長選を振り返って】名護市長選挙に植民地主義を見る／与那嶺義雄、支援・応援体制の在り方の検討を／久貝ユヌス、【論考】軍事国家化の中の辺野古新基地——対米従属、安倍政権差し出す／土岐直彦、【論考】大宜味村政革新運動／比嘉克博、【連載小説】ぼくたちだけの秘密日誌（第2回）／上地隆裕、【しまんちゅスクール・琉球館】